

**第6回 倉敷市歴史文化基本構想等審議会
議事録**

1. 日 時：平成29年11月29日（水）14:00～16:00
2. 場 所：倉敷市役所7階 701会議室
3. 出席者：
 - ・審議会委員

区 分		氏 名	備考
学識経験者	文化財保護審議会	民俗学、城郭史	尾崎 聡 会長
		近代化遺産	小西 伸彦 欠席
		考古学	澤田 秀実
	伝建審	建築学	澁谷 俊彦 欠席
	地域の関連大学		芦田 雅子 欠席
関係団体等	文化施設		大原 あかね
	観光		丹下 恒夫
	メディア		中塚 美佐子
	まちづくり（倉敷）		岡 莊一郎 副会長
	まちづくり（児島）		高田 幸雄 欠席
	まちづくり（玉島）		葺石 寛子
	まちづくり（水島）		野村 泰弘 欠席
公募委員		大塚 文子	
		峰山 洋子	

・事務局

区 分	所 属	役 職	氏 名	備考
行政	倉敷市教育委員会	教育長	井上 正義	
	倉敷市教育委員会	教育次長	加藤 博敏 欠席	
	倉敷市教育委員会生涯学習部	部 長	川原 伸次 欠席	
	倉敷市教育委員会生涯学習部	次 長	樋口 尚司	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	課 長	鍵谷 守秀	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	課長主幹	岡本 由美子	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	主 任	吉原 睦	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	主 任	藤原 憲芳	
コンサル タント	株式会社スペースビジョン研究所	取締役所長	宮前 保子	
	株式会社スペースビジョン研究所	取締役	徳勢 貴彦	

- ・行政関係部局（なし）
- ・報道機関（1社：山陽新聞）
- ・傍聴（なし）

4. 資料：

- ・第6回 倉敷市歴史文化基本構想等審議会 次第
- ・資料1：倉敷市歴史文化保存活用計画（案）
- ・「倉敷市」50周年 大きな絵「ふるさと倉敷」
- ・倉敷市日本遺産シンポジウム 開催概要
- ・日本遺産BS-TBS チラシ
- ・（峰山委員提供資料）岡田藩石高等

5. 議事：

（1）開会・挨拶

事務局

定刻となったので只今から、第6回倉敷市歴史文化基本構想等審議会を開催する。開会にあたって、井上教育長からご挨拶申し上げます。

教育長

大変お忙しい中、また、足元の悪い中、倉敷市歴史文化基本構想等審議会にご出席いただき感謝する。平素から本市の文化財保護行政にご協力いただき、心から御礼申し上げます。

新聞等で報じられているように、現在、文化財に関する事務の一部は、市長部局に移っているが、文化財保護については、法令上は教育委員会にある。文化庁では、文化財保護についても、観光振興等と一体的に進めていくために市長部局に移すべきか、政治的な中立性を保つべきか等が審議されている。これまでの文化財保護はマニアックな面もあったが、近年は、日本遺産に代表されるように、観光とセットで文化財をとりあげていこうという形で、国の方も柔軟な対応になってきている。そのあたりの考え方も踏まえて、色々ご意見をいただければと思う。

本市では、今年14日に真備町の正蓮寺の木造薬師如来像を市の重要文化財に指定した。また、17日には、下津井田之浦の弘泉寺の本堂と山門が国の登録有形文化財に登録されることが発表された。このように指定等文化財が着実に増えており、今後は、このような新たな指定等文化財も含めて、歴史文化を活かした魅力的なまちづくりに取り組んでいく必要があると考えている。そのためにも、現在ご審議いただいている歴史文化保存活用計画が非常に重要になってくると認識している。歴史文化保存活用計画は、前回の審議会でも説明したように、今後10年間に取り組む具体的な内容を盛り込む計画である。今回を含めて2回の会議で計画のとりまとめをお願いしたいと考えている。委員の皆さまには、忌憚のないご意見を賜りますよう、引き続きよろしく願いしたい。

倉敷市50周年記念として、倉敷市内の小学校63校と支援学校1校で、それぞれの学区で誇りに思うものや紹介をしたいものを絵に描く取り組みを実施している。自分たちの学区の歴史を子どもの頃から知ってもらい取り組みであり、この内容についてもご意見等があればいただきたい。今後ともよろしく願いしたい。

事務局

本日の委員の出席状況について、14名のうち9名の委員に出席をいただいているため、本日の会議が成立していることをご報告させていただく。

なお、本日は傍聴並びに報道機関は来られていないこと、ご報告させていただく。

（※会議途中から報道1社あり）

(2) 議事

事務局

尾崎会長に議事の進行をお願いしたい。

会長

お忙しい中、お集まりいただき感謝する。本日は、歴史文化保存活用計画の中でも、繊維に関する市域南部を対象とした計画も追加して提示されており、議事を中心になると思う。会議の円滑な進行にご協力いただきたい。

① 倉敷市歴史文化保存活用計画案の概要について

会長

早速、議事(1)の倉敷市歴史文化保存活用計画案の概要について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

倉敷市歴史文化保存活用計画案の概要は、前回も説明をさせていただいたが、少し分かり難かったため、おさらいの意味も含めて、保存活用計画とは何か等を再度説明させていただく。

(資料説明：計画案1及び2 一略一)

会長

24頁で歴史文化保存活用区域を設定しているが、茶屋町や船穂、児島郷内などの歴史文化保存活用区域に設定していない地域でも保存・活用には取り組んでいくという理解で良いか。

事務局

そうである。

委員

古代吉備に関連する遺跡群の中で、鷲羽山の旧石器時代の遺跡や貝塚群などの先史時代の遺跡について全く触れていないことが気になる。重点的に取り組む区域に含まれないにしても、少しは触れておいた方が良い。

もう一点、庄地区と真備地区の間には、例えば5世紀代の遺跡があり、両地区をつなぐという意味でも重要であるが、それらが抜け落ちている。また、酒津遺跡なども重点的に取り組む区域からは漏れるけれども重要な遺跡である。それらの遺跡にも配慮した形で、文章等を記載した方が良い。

事務局

修正する。歴史文化保存活用区域の保存活用計画に記載されていないから取り組まないというわけではない。

委員

記載していないものに対しても保存・活用に取り組んでいくという姿勢を、計画のどこかに記載しておいた方が良い。

事務局

第2章の「関連文化財群の保存・活用に向けた基本的な考え方」では、倉敷市歴史文化基本構想で設定した12の歴史文化ストーリーごとに、保存・活用の基本的な方向性を整理している。その部分において、ご指摘いただいたような具体の遺跡名をあげながら、歴史文化保存活用区域に入らないものについても保存・活用に取り組んでいくこと、また、その方向性を示していくこととした。今回まとめている「古代吉備に関連する遺跡群」は、代表的なテーマである。代表的なものを抽出するという事は、当然、そこから漏れ落ちるものも出てくる。それらについては、第2章の

部分で示していくこととしたい。

委員

個別の遺跡名まであげる必要はないが、漏れ落ちている遺跡についても、このテーマを構成することが分かるように示されるとよい。弥生時代の青銅器、銅鐸なども重要なものである。担当者が替わっても受け継がれるよう、暗黙の了解ではなく、きちんと示されるべきである。

会長

鷲羽山の旧石器時代の遺跡などは、子どもの頃から学び、親しみのある遺跡であるため、位置付けておくべきである。工夫をして組み込んで欲しい。

②「繊維のまち」保存活用計画案について

会長

議事（２）の「繊維のまち」保存活用計画案について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

「繊維のまち」保存活用計画案について説明させていただく。

（資料説明：計画案 3-1 一略一）

会長

地区ごとに推進体制の特徴があって面白い。

委員

47 頁の玉島エリアの構成する主な文化財に高瀬通しがあげられているが、高瀬通しは玉島エリアの文化財と言って良いのか。

事務局

高瀬通しは高梁川から玉島港に物資を運び、玉島を発展させた運河である。運河の入口は船穂にある一の口水門であるが、「繊維」を切り口に玉島を見る時には、玉島のストーリーに位置づけても良いと考えている。エリアは厳密に区切っているわけではなく、エリア内でのテーマを語る上で関連する文化財をできるだけ多くあげている。

会長

玉島では源平合戦の伝承があるが、今回の計画に記述がないのはなぜか。

事務局

玉島では現在の玉島港あたりで、源平合戦が行われた。今回は「繊維」をテーマとしているため取り上げていない。まちづくりの中では当然活かしていくべきものである。

会長

「繊維」でまとめる以前に、縄文や弥生なども含め、前代のこととも整理しておく必要がある。

会長

水玉ブリッジラインの橋は歩いて渡ることができ、源氏側と平家側の両方を訪れることができるという意味で、活用面では重要である。「繊維」のテーマからは外れるが、計画のどこかで記載できると良い。

事務局

倉敷市内には、全国的にも有名な合戦の地が数多くある。藤戸も源平合戦で有名である。今後 10 年間の重点テーマとしては繊維をとりあげているが、その中で、関連づけて取り組んでも良いし、次の 10 年の重点テーマとしても良いと思う。

委員

歴史は語られなくなると失われてしまう。語られる歴史は事実になり、そうでないものは漏れ落ちていくという流れは当然のことである。合戦の歴史を全く記載せずに計画をつくったら、倉敷市として合戦の歴史を捨てたといわれても仕方がない。10年後、ここで合戦があったと言っても、それを語る人がいなければ、その歴史は消えてしまう。受け継がれてきた歴史をしっかりと語り続けることが重要である。今回の「繊維のまち」にしても、「歴史をつくっている」と思われかねない。そうではない事実であることを証明することが大切である。

倉敷と児島と玉島とを横串でつなぐようなことは考えていないのか。

事務局

例えば児島は岡山藩領であり、玉島には一部天領があるように、これまで倉敷と児島と玉島は、それぞれが別ものの歴史と思われていた。しかし、干拓から続く「繊維」をテーマにすることで、倉敷市の広い範囲で、同じ歴史を共有し、横串でつなぐことができるのではないかということである。

委員

計画では、エリアごとに整理をされているため、横串がどこを通っているのかが分からない。「繊維のまち」というキーワードが共通していることは分かるが、各エリアがどのように関連しているかが読み取れないので、もう少し分かり易くして欲しい。

倉敷エリアについては、倉敷紡績ができてからの歴史になっており、その以前の江戸時代の歴史等が完全に落とされているが、観光振興という面では、そこが大切であると思う。また、第二次大戦後に繊維産業が離れていく中で、キーワードとなる「繊維」がどのような意味をもっていたかが大切であり、繊維産業自体がいなくなった町で、今後、どのように「繊維」をテーマにしたプラットフォームをつくっていくかにも関係してくると思う。プラットフォームをつくってくれるということで、期待をしている。

委員

今年は、倉敷・児島・玉島が合併して成立した倉敷市の50周年であるが、これまで市全体で取り組もうとしても、なかなかまとまらなかった面がある。それを「繊維」というテーマで、文化財を活かしながら、観光やまちづくりを通じて、各地域をどのようにつなげていくかが大切であると思う。

事務局

取り組みを進める中で、継続的に検討していかなければならないことであると思う。倉敷・児島・玉島のそれぞれで、繊維の歴史の捉え方は若干異なる。児島にジーンズを買いに来た人は、なぜ児島のジーンズが有名なのかと疑問に思う。その背景には北前船があり、後背地での綿作があり、古くから繊維産業が発展し、明治時代には下村紡績がつくられたこと、そのような中で、足袋から学生服、そしてジーンズへとつながっているという説明をすると大変喜んでもらえる。そのような形で、児島では繊維産業の方から繊維の歴史を見ていくことになる。一方で、倉敷では、美観地区の町並みから繊維の歴史を見ていくことになる。

委員

アイビスクエアに行って倉敷紡績の話をするとう繊維につながる。また、美観地区には、児島から繊維関係の人が多く店を出すようになっていて、ジーンズなどの繊維製品の店が多く並ぶことから、繊維産業や児島との関係を説明することもできる。では、玉島をどのようにつなげるのか。

事務局

それは検討していかなければならない。そのようなつながりを創り出すための歴史文化基本構想であり、日本遺産の事業である。

委員

美観地区の観光客が突出して多いが、そのような観光客に、繊維を通じて、児島や玉島に目を向けてもらう仕掛けが大切である。そのためには文化施設が大切である。児島や玉島には立派な文化施設があるが、倉敷では、図書館も手狭になってきているなど、一番重要な倉敷の町なかに、発信の拠点となる施設がないように思う。

事務局

将来的には、ここに行けば倉敷の歴史を学べるという場所があるべきだと考えている。

委員

以前、本町通りに「倉敷歴史館」があったと思う。

副会長

個人が運営されていた施設である。閉鎖して30年くらい経つ。

事務局

「倉敷歴史館」は、学校の教員をされていた方が、在職中に収集された鎧や甲冑などを展示していたといわれている。倉敷の歴史についての展示施設というわけではなかったようである。

会長

横串でつなぐことが難しい背景には、繊維の研究自体が、十分にされてきていなかったこともあると思う。先人が書かれた書籍を丹念に読んでいくと、繊維に関する歴史も数多く記載されていることが分かる。最初は塩田をしていたが、いつ頃に綿畑に替えたということや、「綿畑」の小字名が下の町や味野などに残るということも記載されている。綿畑には井戸が欠かせなかったため、数多くの井戸があったようであるが、それが現在どのようになっているかの調査・研究も未だされていない。綿の再生については、関連部局等で取り組んでいるが、綿畑跡などがどこにあったかが分かるようにできると良い。

委員

イ草畑は、どこにあったかなどを調べて、発信されている方がいる。どこで、どのように綿が栽培されていたかが分かるようになると良い。

副会長

市内には、明治期に紡績所が点在して立地していたことから、綿畑が広がっていた状況が想像できる。確実な資料などの基礎的な調査・研究が必要であり、綿によるストーリーの一つの原点になる。横軸だけでなく、紡績、染色、織りといった縦軸の流れも踏まえなければならない。

会長

塩田跡地は塩釜神社の分布から研究・整理されているが、綿の神様を祀る神社は分からない。

委員

保存活用計画は重点テーマに関する計画が中心になる。従って、重点テーマを決定する2-3が重要な意味をもつ。歴史文化基本構想で設定してきた5つの関連文化財群と12の歴史文化ストーリーをもとに、2つの重点テーマを設定して取り組むことを明確に示した方が良い。23頁に示されているが、この部分をもっと目立つように、強調できれば良い。また、3の冒頭においても、いきなり「3-1「繊維のまち」保存活用計画」とするのではなく、「2で設定した重点テーマ・歴史文化保存活用区域をもとに」などの説明をして、歴史文化基本構想を実現していくための第一歩で

あることを明確に示した方が良い。

会長

23 頁の図中で線が出ていない歴史文化ストーリーもある。それは次の 10 年の重点テーマになり得るということである。今後の可能性が感じられるように、澤田委員の指摘を踏まえて書き方の工夫をした方が良い。

委員

例えば、想定される重点テーマを 10 個くらい列記した上で、全てに取り組むことはできないので、まずは、「繊維のまち」と「古代吉備に関連する遺跡群」から取り組んでいくという整理ができるとうい。先ほど出た源平合戦なども、今後の重点テーマになると思うし、その他にも、船穂の船穂ワインなどのような農産物関係や玉島の良寛や古代に発する窯業などもテーマになり得る。

会長

この審議会でも、この話が繰り返し議論されるように、市民にもそれぞれ自分の好きな時代があって、市民の間でも話題にされる内容であると思うので、丁寧に対応いただきたい。

事務局

重なりが多い重点テーマはこの 2 つのテーマであると思う。先ほど大原委員が指摘された「歴史をつくっている」ということにも関連するが、当初からのジレンマとして、歴史文化基本構想はストーリーで地域を語ることになっている中で、ひとつの地域をストーリーで語ると、必ず漏れ落ちるものが出てくる。できるだけ広くカバーするためには、「繊維」をテーマにすれば良いだろうということである。しかし、それでも漏れ落ちる文化財はある。その点については、澤田委員から指摘があったように、重点テーマはこれだけではないことを説明していく中で対応したい。「繊維のまち」では、3 エリアの歴史文化保存活用区域を設定しているが、これらのエリアのまちづくりに税金を投入していくためには、本来は明確な境界を引く必要がある。しかし、そのような線引きをすると、一歩外れると対象ではないということになってしまうが、そのようなものではないと思う。従って、曖昧な境界で示して、出来る限り広く対象を捉えられるようにしたところである。本当は、23 頁の図で、薄く色塗りをしている区域も含めて、全体を歴史文化保存活用区域に設定したいが、それでは計画にならない。倉敷市の中でも特に重要なエリアを決めて、そこから重点的に取り組んでいくための基になる計画である。

委員

市の戦略として、重点的に取り組む区域を決めて作成する計画であれば、漏れ落ちる部分は、別の方法で対応をしていかなければならないのではないかと。

委員

市全体の文化財保護行政は、ベースとして、着実に取り組んでいくということである。その上に載せて、バリエーションをつけていくものが、この計画である。その第 1 回目のテーマとして、「繊維のまち」と「古代吉備に関連する遺跡群」を設定しているということである。

委員

ストーリーから漏れ落ちるものがあることは仕方ない。先ほど指摘した「歴史をつくっている」というのは、ストーリーをつくるために、ちょっとしたことを大きく扱い過ぎるといったことである。疑わしいことをあたかも史実かのように公表していくことが「歴史をつくっている」ということである。

委員

それは研究者にも一部責任があると思う。これまでの文化財保存は、個別具体の研究であったため、その価値が一般には分かり難かった。従って、誰もが分かるように、歴史的な脈絡の中で重要性を説明していこうということになってきているわけである。歴史をデフォルメすることはよくないが、そのような意味では、ストーリーはつくらざるを得ないと思う。

会長

吉備真備の伝説などは、大分と問題になるかと思う。長い間、地域では大切に語り継がれてきたこと自体は重要であるが、それが、必ずしも史実ではないということもある。

24 頁の図にある区域名について、「倉敷エリア」「玉島エリア」とある中で、「児島エリア」ではなく、敢えて「児島・下津井エリア」と表現していることには理由があるのか。

事務局

児島の駅前を中心とした区域は、繊維関係でも江戸時代の終わりから現代に至るストーリーで語られる区域である。一方で、下津井は、江戸時代の港町関連の文化財を中心に展開するストーリーとなる。このように、ストーリーとして若干異なることから、「児島・下津井エリア」としている。「児島エリア」の方が良いようであれば修正する。

会長

「児島・下津井エリア」という表現が良いと思い、その意図を確認したところである。

③「古代吉備に関連する遺跡群」保存活用計画案について

会長

議事（3）の「古代吉備に関連する遺跡群」保存活用計画案について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

「古代吉備に関連する遺跡群」保存活用計画案について説明させていただく。
(資料説明：計画案3-2 一略一)

会長

前日も議論した項目であるが、質問等はあるか。

委員

「整備・活用の方針」に入る内容かと思うが、普及活動については、どのように考えているのか。

事務局

庄エリアでは、「整備・活用の方針」の6点目に、「講座やシンポジウム、体験型イベント等の開催、地域住民との協働による調査の実施や発掘調査状況の公開並びに成果の報告・発信などを継続的に実施する」と記載している。真備エリアは、小学校や公民館、図書館などで、歴史の講演をして欲しいという依頼が比較的多い。また、合併前には、新しく赴任されてきた先生に対して、真備の歴史を紹介して回って欲しいという依頼もあったりした。そのようなことを今後も続けていければと思う。また、これまではあまり実施してきていないが、遺跡を巡るような取り組みを積極的に実施していきたいと考えている。

委員

展覧会は一定期間ではあるが、地域内外から多くの人を訪れるため、普及啓発のためには重要である。展覧会に講演会を付随できると良い。展覧会の開催を両エリアに追加して欲しい。また、その際に、両エリアのどこで展覧会をするかが課題となる。真備には歴史資料館があるが、庄にはそのような施設がない。また、考古遺物は、温度管理に厳しいものもあり、東京国立博物館のものを

もってくるためには、相応の設備が整った施設が必要となる。

委員

真備地区では、11月25日に金田一のイベントを実施した。全国から多くの金田一ファンが来られた。清音駅から岡田ふるさと歴史館まで歩いて来られるが、真備ふるさと歴史館の隣の岡田小学校は、江戸時代の川辺の陣屋跡とされる。秋には金田一ファンが多く来られるので、春には岡田藩と関連づけながら、歴史を知ってもらうことができないかと考えているところである。岡田藩は小さな藩であるが故に歴史の中に埋もれてしまいかねないので、積極的に活かしていきたい。また、真備ふるさと歴史館には古文書も含めて、多くの資料を展示しているので、周知していきたいと考えている。

委員

古代の遺物は見栄えもするし、新しい史料が出たら、遠方からも多くの方が訪れる。拠点となる倉敷の美観地区内と、地元との両方で展覧会を開催し、来訪者と地元住民との両方を対象にできると良いと思う。また、そのような中で、岡田藩の近世史料なども展示していても良いと思う。

副会長

遺跡群は、総社市にも数多くあるのか。

委員

庄地区と真備地区は少し離れており、その間に総社市との市境があるが、そこにも両地区を結節するような遺跡がある。

副会長

まとめることは難しいのか。

事務局

現在、岡山市、総社市と一緒に古代吉備の遺跡群の日本遺産の認定を目指している。

委員

市境で大きく分断されているが、3分の1くらいはつながっている。その部分にも貴重な遺跡がある。また、そこには丁度良い山道の散策路があって周遊に使える。市レベルでの面的なつながりは難しいが、活用面で線的に結節して、一体的に取り組んでいくことは大切である。表3-11、12、13と表3-15、16、17を一体化して、両地区の間に位置する遺跡も入れ込んでも良いと思う。

委員

I C Tの活用は考えていないのか。次の段階になるのか。

事務局

まずは調査から進めていかなければならない状況である。調査を踏まえて、まずは、楯築遺跡や古墳群等の史跡整備に取り組んでいきたいと考えている。

委員

ハードで整備が難しい場合は、I C Tを活用して表現することで、多くの方が訪れることにもつながる。

事務局

I C Tの活用までは考えていなかった。考え方としては追加しても良いと思う。

委員

美観地区も同様で、歴史を知る部分を仮想空間で作成して、発信していく方法もある。多言語化も容易にできる。

まずはしっかりと保存をした上で、多くの人に興味をもつような形で発信していかなければならない。古代吉備の歴史は、歴史的に現在と断絶しているところが扱い難い。現在にどのように生きているのかを含めて活かしていければ良いと思う。

会長

城跡などでは、現存する石垣の上にバーチャルで城を再現すると圧巻である。そのような技術を、繊維をテーマにどのように活かしていけるかは研究していかなければならない。

委員

楯築遺跡のかつての墳丘の姿をバーチャルで再現していくことも良いと思う。

委員

関連して、研究論文等へのアクセスもできれば良い。海外の方の中には、その地区でどのような研究がされているのかに興味を持たれる方もいる。建物を建てて研究論文を置くことはあり得ないので、ICTを利用して、閲覧ができるような環境を整えることも必要と思われる。

委員

研究の蓄積をストックすることは重要である。著作物であるので、そのあたりをクリアしながら整備していけると良い。

委員

事業計画の中に、場所と場所をつなぐアクセスの整備は入れられないのか。特に、倉敷から児島など、他のエリアに行くための交通手段の整備は必要であると思う。

事務局

倉敷と児島と玉島とをつなぐことは重要であると認識しているが、事業として成り立たないことなどから、現実的には進んでいない。しかし、目標として目指していくことは、今回の計画に記載しても良いかと思う。イベント的に単発で公共交通を走らせることはできるが、恒常的な公共交通機関を整備することは難しい。

委員

「中学生や高校生が自分たちだけで巡る」という文言を入れるだけで、公共交通機関の整備が進む場合があるので検討いただきたい。

委員

児島にしても、玉島にしても、駅を降りてバスを利用しないと、観光地に行けない。美観地区は駅から15分程度でアクセスできるが、そこから、児島や玉島に行こうと思うと、もう一度駅に戻らなければならない。美観地区から児島に行こうと思ったら、岡山駅まで戻って乗り換えなければならない。美観地区から児島にはどのように行けば良いかをよく尋ねられる。

副会長

観光客は、同じ倉敷市だから、美観地区から児島までタクシーで行っても、2千円程度だろうと思われて来られる。しかし、実際は4~5千円はかかると思う。そのような観光客に、児島に行くには岡山駅に戻って、瀬戸大橋線に乗り換えなければならないことを伝えると、児島はまたの機会にしようということになってしまう。この計画の最終的な目標のひとつに観光振興があるのであれば、現実問題として、交通機関の整備を入れておかなければならない。

大原謙一郎氏は倉敷市を多機能都市と表現されている。歴史や文化の異なるさまざまな地域が一つの市になっているのが倉敷市であり、そのことを踏まえて計画をつくっていかなければ、各地域はつながらない。

事務局

具体的なネットワークの方法は、今後の検討の中で決めていかなければならないので、今回の計画では、各地区をつないでいくという、大きな目標・方向性だけは示しておきたい。

会長

時間がなくなってきたが、全体を振り返って意見等はないか。特に、24頁の5つのエリアを単位として保存活用計画を策定していくということで、異存はないか。

(意見なし)

会長

それでは、事務局は、この方向性で作業を進めていただければと思う。進行を事務局に返す。

(3) その他

事務局

長時間にわたるご審議に感謝する。本日いただいた意見を踏まえて、計画案の修正を進める。

今後のスケジュールについて、審議会は、今回を含めて2回を予定している。本日いただいた意見をもとに修正した計画案を、12月中を目途に、各委員に郵送する。修正案をご覧いただき、意見があれば提出して欲しい。意見をもとに再度修正を加え、2月にパブリックコメントを実施する予定である。パブリックコメントを踏まえた修正の後、2月末から3月初旬に最終の審議会を開催して、計画案の承認をいただきたいと考えている。

本日の審議会とは、直接は関係しないが、事務局から日本遺産関係のお知らせをさせていただく。

(お知らせ：日本遺産BS・TBSチラシ 一略一)

(お知らせ：倉敷市日本遺産シンポジウム開催概要 一略一)

(4) 閉会

事務局

閉会にあたり、樋口生涯学習部次長からご挨拶申し上げる。

次長

本日は大変お忙しい中、ご出席いただき感謝する。委員の皆さまには熱心にご審議いただくとともに、貴重なご意見・ご指導を賜り感謝する。本日いただいたご意見をもとに、保存活用計画案の修正を行い、パブリックコメントの実施を踏まえて、次回の審議会において、承認をいただきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

事務局

以上で第6回倉敷市歴史文化基本構想等審議会を閉会する。

以上の議事録を、平成29年11月29日開催の第6回倉敷市歴史文化基本構想等審議会議事録(要旨)とすることに同意します。

平成29年12月19日

倉敷市歴史文化基本構想等審議会
会長 尾崎 聡